

◆◆ 書 ◆◆

文字・表現方法と道具について

～小学校高学年以上用～

●「書」とは何か？

文学は人間のこゝろを伝える方法として作られ、いつの時代またどの国でも、文字を書くときに、ただわかればよいという他に、少しでも美しく形を整えて書きたいと考えられるようになります。

やがて時代がたち、文字を書く道具である『毛筆（もうひつ）』の発達により、感情や気持ちをこめてあらわすことができるようになりました。

その文字に人の心のたかさ、ふかさ、美しさをあらわしたものが『書』という芸術であります。現在の『書』は大きく漢字（かんじ）、仮名（かな）、篆刻（てんこく）と3つに分けられます。それではこの3つについて簡単にお話しします。

◇漢 字◇

漢字には篆書（てんしょ）・隸書（れいしょ）・草書（そうしょ）・行書（ぎょうしょ）・楷書（かいしょ）と5つの、文字の造形を様式からとらえた書体（しょたい）があり、篆書はそのうち最も古い時代にでき文字の基本の形です。篆書から隸書ができ、それが草書、行書となり最後に楷書が作られていきました。



【漢字（かんじ）の作品】新井光風先生

●篆書

中国の殷（いん）【前 1300 年頃～前 1050 年頃】の時代に亀のこうらやけもの骨に占いの文字をほった亀甲文（きっこうぶん）、殷から周（しゅう）【前 1050 年頃～前 221 年】にかけて青銅器にいこんだ金文（きんぶん）、戦国時代（せんごくじだい）【前 403 年～前 221 年】の大篆（だいてん）、秦（しん）【前 221 年～前 206 年】の始皇帝時代に完成した小篆（しょうてん）のすべてをふくめて篆書と言います。

みんなが日常よく目にするものでは、実印や看板、本の装丁に見られる題字（だいじ）などです。

● 隷書

隷書は漢代（かんだい）に流行した書体です。それまでの縦長で丸みを持った小篆を簡略にした形で、偏平（へんぺい）で横に広い様式美を備えています。

● 草書

漢代の最初にあらわれた書体です。はや書きという実用的な側面から出発し一番簡略になった書体で、例えるならマラソン競争のように文字を続けて書くようなものと考えてください。

● 行書

行書は隷書のはや書きで大変実用的で、楷書よりも自由で幅広い表現への可能性があります。例えるとちょっと早足な感じでスイスイと書くものです

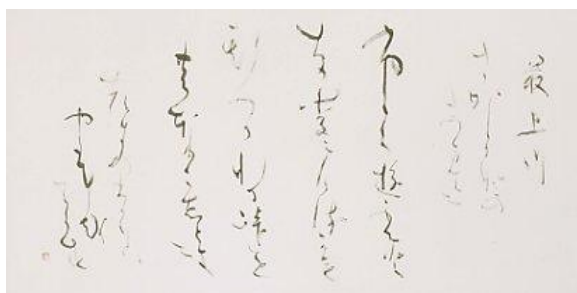
● 楷書

楷書は漢字の形態におけるスタンダードな書体です。きちんとたっている様子で標準になる書です。皆さんが書写の時間や硬筆で書く文字が楷書です。

◇ 仮 名 ◇

かなは、中国より輸入された漢字をきそとして我が国土で芽ぐみ、日本人の心に培われて成長した文字で、日本人どくじの世界に誇る芸術です。

日常使っている仮名には、平仮名・片仮名の2種類があります。平仮名が現在の形になったのは、早く平安中期にさかのぼりますが、片仮名が現在の形に統一されたのは、近世に入ってからのようです。固有の文字を持たなかったわが国の昔の人は、中国から来た漢字を持って日本語を表記する方法を考え出しました。



【仮名（かな）の作品】日比野光鳳先生

漢字の表意性を捨てて、その音だけを利用して書かれたものが表音文字（ひょうおんもじ）で、この手法で日本の固有名詞を書き表しました。今でいう当て字のようなものです。

5世紀前後から約3百年の間に、私たちの先人たちは、もっぱら漢字の音を用いながら、日本語を表記し漢字を仮名として使用しました。その用法は、それを代表する『万葉集（まんようしゅう）』によって『万葉がな』と呼ばれたのです。奈良時代はこの万葉がなを楷書、行書の2体でかくのが普通でしたが、生活が簡略を求める自然の中で、ますます略体化の方向をたどり、平安朝に入り「おんなで」（平かな）が生まれます。

◇篆 刻◇

篆刻とは、文字を通り、「篆書をほる」こと。

もっと具体的に言えば、「石、木、銅などの印材に篆書を用いて印をほる」ことです。古代の印は、どれも篆書をほったものでしたから、『篆刻』という名称が生まれました。

中国で印が使われ始めたのは、だいたい春秋戦国（しゅんじゅうせんごく）のころといわれています。今からおよそ5千5百年前に発生した西メソポタミヤの印章が、はるばる中国に伝えられてきたのが 始まりのようです。印は今も昔も自分の信用をしめし、権利と義務をあらわすものに使われています。

『篆刻』は小さな四角の中に書としての筆意と美しさを刻した文字に表現させる芸術です。今日では、篆書のみではなく、隸書・楷書・行書・草書・かなの各書体を用いても、みな『篆刻』と呼んでいます。



●篆刻の道具いろいろ



●ほる

◇書の道具、使い方◇

●筆

書では、文字を筆を使って書きます。いろいろな文字を書くために、筆の種類もいろいろとあります。



筆は動物の毛で作られています。毛の種類は、一般に狸（たぬき）、いたち、馬、鹿、羊、猫が使われています。

毛の長さ、柔らかさ、大きさもさまざまです。長いもの短いもの、硬いもの柔らかいもの…

どんな筆で書いているのかを考えながら見るのもおもしろいかもしれません。

●紙

書で筆と同じように大切なのは紙です。紙にもさまざまな種類の紙があります。紙は機械で漉（す）いたものと手で漉いたものに分かれ、材料は自然材料が用いられます。材料には、麻、雁皮（がんび）、桑、竹、楮（こうぞ）、三椏（みつまた）、藁（わら）などがあります。

●墨（すみ）

墨を筆につけて文字を書いていきます。

墨の主原料は煤煙（ばいえん）、膠（にかわ）、香料で、固形墨と液体墨の二種類があります。



●道具

書くためには、硯（すずり）など、この他にもいろいろな道具があります。

